



Sun Studio 11 インストールガイド (Solaris プラットフォーム)

Sun™ Studio 11

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4644-10
2005 年 11 月, Revision A

Copyright© 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

フロント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、および JavaHelp は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.(以下、米国 Sun Microsystems 社とします)の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

このマニュアルに記載されている製品および情報は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

原典:	<i>Installation and Setup Guide for Solaris Platforms : Sun Studio 11</i> Part No: 819-3052-10 Revision A
-----	---



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに	ix
書体と記号について	x
シェルプロンプトについて	x
サポートされるプラットフォーム	xi
Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページへのアクセス	xi
Sun Studio マニュアルへのアクセス方法	xiv
関連する Solaris マニュアル	xvi
開発者向けのリソース	xvi
技術サポートへの問い合わせ	xvii
1. インストールの準備	1
ソフトウェアのインストールの概要	2
システム要件	2
スワップ空間の追加	4
インストーラのローカル表示とリモート表示の選択	5
NFS マウントのファイルシステムへのインストール	6
ゾーンを使用した Solaris 10 へのインストール	8
このリリースに含まれるインストール機能	8
2. Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール	9

旧リリースの Sun Studio と Sun ONE Studio のサポート	9
ダウンロードしたファイルのインストール	10
インストール方法の選択	10
GUI インストーラによるインストール	11
コマンド行インストーラによるインストール	15
バッチインストーラによるインストール	17
Solaris JumpStart インストーラによるインストール	20
J2SE プラットフォームおよび関連する Solaris オペレーティングシステムのバッチのインストール	21
インストールの成功の確認	21
開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定	22
Sun Studio 11 ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定	23
Sun Studio 11 のマニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定	23
環境変数の変更	24
プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用	26
3. Sun Studio 11 IDE の起動と設定	27
IDE の起動	27
設定ウィザードの使い方	28
登録ウィザードの使い方	28
システム管理者への注意	29
4. Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール	31
旧バージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール	32
アンインストーラのローカル表示とリモート表示の選択	32
リモート表示によるアンインストールの準備	32
バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール	33
GUI アンインストーラによるアンインストール	34

コマンド行アンインストーラによるアンインストール 36

Solaris Product Registry ソフトウェアによるアンインストーラ 38

5. 障害追跡 39

シンボリックリンクを使ってアクセスされるディレクトリへのインストール 39

製品レジストリの問題 40

インストールが失敗した場合の確認および対処法 41

アンインストールが失敗した場合の対処法 41

productregistry ファイルが破壊された場合の対処法 42

インストールログファイルの参照方法 43

リモート表示によるインストール 44

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合 44

リモート表示インストール中に ToolTalk ソフトウェアセッションを初期化する方法 45

バッチインストーラが停止した場合の対処法 45

A. Sun Studio 11 のコンポーネントとパッケージ 47

B. パッチの識別番号と説明 57

C. J2SE テクノロジに必要なパッチの識別番号と説明 61

D. Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号 65

用語集 67

索引 69

表目次

表 1-1	システム要件	3
表 2-1	batch_installer のオプションとその説明	18
表 2-2	batch_installer コマンドとオプションの使用法	18
表 4-1	ソフトウェア名とアンインストーラ .class ファイル名の関係	34
表 A-1	SPARC システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ	48
表 A-2	x86 システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 update 1 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ	52
表 B-1	SPARC システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ	57
表 B-4	x86 システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ	58
表 B-5	x86 システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ	58
表 B-2	SPARC システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ	58
表 B-3	SPARC システム版 Solaris 10 OS 用のパッチ	58
表 B-6	x86 システム版 Solaris 10 OS 用のパッチ	59
表 C-1	J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ	61
表 C-2	J2SE テクノロジと共にインストールされる x86 システム版 Solaris 8 用のパッチ	62
表 C-3	J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ	63
表 C-4	J2SE テクノロジと共にインストールされる x86 システム版 Solaris 9 用のパッチ	64
表 D-1	Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号	65

はじめに

このマニュアルでは、次の作業手順について説明します。

- Sun™ Studio 11 software およびシリアル番号のインストール
- Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) テクノロジーのインストール (推奨)
- インストール後の統合開発環境 (IDE) の起動と設定
- Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール
- インストールに関する問題のトラブルシューティング

このマニュアルは、ソフトウェアのインストールを行うシステム管理者、およびソフトウェア開発アプリケーションを使用する開発者を対象にしています。Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) と UNIX® のコマンドについて多少の知識が必要となります。

書体と記号について

表 P-1 書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の変換部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING '

* 使用しているブラウザにより、これら設定と異なって表示される場合があります。

表 P-2 コードについて

コードの記号	意味	記法	コード例
[]	角括弧には、オプションの引数が含まれます。	O[n]	-O4,-O
{}	中括弧には、必須オプションの選択肢が含まれます。	d{y n}	-dy

表 P-2 コードについて (続き)

コードの記号	意味	記法	コード例
	「パイプ」または「バー」と呼ばれる記号は、その中から1つだけを選択可能な複数の引数を区切ります。	B{dynamic static}	-Bstatic
:	コロンは、コンマ同様に複数の引数を区切るために使用されることがあります。	Rdir[:dir]	-R/local/libs:/U/a
...	省略記号は、連続するものの一部が省略されていることを示します。	-xinline=fl[,...fn]	-xinline=alpha,dos

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

サポートされるプラットフォーム

この Sun Studio のリリースは、SPARC® および x86 ファミリ (UltraSPARC®, SPARC64, AMD64, Pentium, Xeon EM64T) プロセッサアーキテクチャをサポートしています。サポートされるシステムの、Solaris オペレーティングシステムのバージョンごとの情報については、<http://www.sun.com/bigadmin/hcl> にあるハードウェアの互換性に関するリストで参照することができます。ここには、すべてのプラットフォームごとの実装の違いについて説明されています。

このドキュメントでは、x86 関連の用語は次のものを指します。

- 「x86」は 64 ビットおよび 32 ビットの、x86 と互換性のある製品を指します。

- 「x64」は AMD64 または EM64T のシステムで、特定の 64 ビット情報を指します。
- 「32 ビット x86」は、x86 ベースシステムで特定の 32 ビット情報を指します。

サポートされるシステムについては、ハードウェアの互換性に関するリストを参照してください。

Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページへのアクセス

Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページは、`/usr/bin/` と `/usr/share/man` ディレクトリにはインストールされません。ソフトウェアにアクセスするには、`PATH` 環境変数を正しく設定しておく必要があります (xii ページの「ソフトウェアへのアクセス方法」を参照)。また、マニュアルページにアクセスするには、`MANPATH` 環境変数を正しく設定しておく必要があります (xiii ページの「マニュアルページへのアクセス方法」を参照)。

`PATH` 変数についての詳細は、`cs(1)`、`sh(1)`、`ksh(1)`、および `bash(1)` のマニュアルページを参照してください。`MANPATH` 変数についての詳細は、`man(1)` のマニュアルページを参照してください。

注 – この節に記載されている情報は Sun Studio のソフトウェアが `/opt` ディレクトリにインストールされていることを想定しています。製品ソフトウェアが `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

ソフトウェアへのアクセス方法

`PATH` 環境変数を変更してソフトウェアにアクセスできるようにする必要があるかどうか判断するには以下を実行します。

`PATH` 環境変数を設定する必要があるかどうか判断する

1. 次のように入力して、`PATH` 変数の現在値を表示します。

```
% echo $PATH
```

- 出力内容から `/opt/SUNWspro/bin` を含むパスの文字列を検索します。
パスがある場合は、`PATH` 変数はソフトウェアのツールにアクセスできるように設定されています。このパスがない場合は、次の手順に従って、`PATH` 環境変数を設定してください。

PATH 環境変数を設定してソフトウェアにアクセスする

- 次のパスを `PATH` 環境変数に追加します。以前に Forte Developer ソフトウェア、Sun ONE Studio ソフトウェア、または Sun Studio の他のリリースをインストールしている場合は、インストール先のパスの前に、次のパスを追加します。

```
/opt/SUNWspro/bin
```

マニュアルページへのアクセス方法

マニュアルページにアクセスするために `MANPATH` 環境変数を変更する必要があるかどうかを判断するには以下を実行します。

MANPATH 環境変数を設定する必要があるかどうか判断する

- 次のように入力して、`dbx` のマニュアルページを表示します。

```
% man dbx
```

- 出力を確認します。

`dbx(1)` のマニュアルページが見つからないか、表示されたマニュアルページがインストールされたソフトウェアの現バージョンのものと異なる場合は、この節の指示に従って、`MANPATH` 環境変数を設定してください。

MANPATH 環境変数を設定してマニュアルページにアクセスする

- 次のパスを `MANPATH` 環境変数に追加します。

```
/opt/SUNWspro/man
```

統合開発環境へのアクセス方法

Sun Studio 統合開発環境 (IDE) には、C や C++、Fortran アプリケーションを作成、編集、構築、デバッグ、パフォーマンス解析するためのモジュールが用意されています。

IDE を起動するコマンドは、`sunstudio` です。このコマンドの詳細は、`sunstudio(1)` のマニュアルページを参照してください。

IDE が正しく動作するかどうかは、IDE がコアプラットフォームを検出できるかどうかによって依存します。このため、`sunstudio` コマンドは、次の 2 つの場所でコアプラットフォームを探します。

- コマンドは、最初にデフォルトのインストールディレクトリ `/opt/netbeans/3.5V11` を調べます。
- このデフォルトのディレクトリでコアプラットフォームが見つからなかった場合は、IDE が含まれているディレクトリとコアプラットフォームが含まれているディレクトリが同じであるか、同じ場所にマウントされているとみなします。たとえば IDE が含まれているディレクトリへのパスが `/foo/SUNWspro` の場合は、`/foo/netbeans/3.5V11` ディレクトリにコアプラットフォームがないか調べます。

`sunstudio` が探す場所のどちらにもコアプラットフォームをインストールしていないか、マウントしていない場合、クライアントシステムの各ユーザーは、コアプラットフォームがインストールされているか、マウントされている場所 (`/installation_directory/netbeans/3.5V11`) を、`SPRO_NETBEANS_HOME` 環境変数に設定する必要があります。

Forte Developer ソフトウェア、Sun ONE Studio ソフトウェア、または他のバージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合、IDE の各ユーザーは、`$PATH` のそのパスの前に、`/installation_directory/SUNWspro/bin` を追加する必要もあります。

`$PATH` には、`/installation_directory/netbeans/3.5V11/bin` のパスは追加しないでください。

Sun Studio マニュアルへのアクセス方法

マニュアルには、以下からアクセスできます。

- 製品マニュアルは、ご使用のローカルシステムまたはネットワークの製品にインストールされているマニュアルの索引から入手できます。

`file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html`

製品ソフトウェアが `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

- マニュアルは、`docs.sun.comsm` の Web サイトで入手できます。以下に示すマニュアルは、Solaris プラットフォームにインストールされているソフトウェアからアクセスできます。
 - 『Standard C++ Library Class Reference』
 - 『標準 C++ ライブラリ・ユーザズガイド』
 - 『Tools.h++ クラスライブラリ・リファレンスマニュアル』
 - 『Tools.h++ ユーザズガイド』
- `docs.sun.com` Web サイトからは、Solaris および Linux 両方のプラットフォーム用のリリースノート入手できます。
- IDE の全コンポーネントのオンラインヘルプは、IDE 内の「ヘルプ」メニューだけでなく、多くのウィンドウおよびダイアログにある「ヘルプ」ボタンを使ってアクセスできます。

インターネットの Web サイト (<http://docs.sun.com>) から、Sun のマニュアルを参照したり、印刷したり、購入することができます。マニュアルが見つからない場合はローカルシステムまたはネットワークの製品とともにインストールされているマニュアルの索引を参照してください。

注 - Sun では、本マニュアルに掲載した第三者の Web サイトのご利用に関しましては責任はなく、保証するものでもありません。また、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

アクセシブルな製品マニュアル

マニュアルは、技術的な補足をすることで、ご不自由なユーザーの方々にとって読みやすい形式のマニュアルを提供しております。アクセシブルなマニュアルは以下の表に示す場所から参照することができます。製品ソフトウェアが /opt 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

マニュアルの種類	アクセシブルな形式と格納場所
マニュアル (サードパーティ製マニュアルは除く)	形式: HTML 場所: http://docs.sun.com
サードパーティ製マニュアル	形式: HTML 場所: file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html のマニュアル索引
	<ul style="list-style-type: none">『Standard C++ Library Class Reference』『標準 C++ ライブラリ・ユーザーズガイド』『Tools.h++ クラスライブラリ・リファレンスマニュアル』『Tools.h++ ユーザーズガイド』
Readme	形式: HTML 場所: http://developers.sun.com/prodtech/cc/documentation/ss11/ja/mr/READMEs の開発者ポータル
マニュアルページ	形式: HTML 場所: file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html のマニュアル索引
オンラインヘルプ	形式: HTML 場所: IDE 内の「ヘルプ」メニューおよび「ヘルプ」ボタン
リリースノート	形式: HTML 場所: http://docs.sun.com

関連する Solaris マニュアル

次の表では、docs.sun.com の Web サイトで参照できる関連マニュアルについて説明します。

マニュアルコレクション	マニュアルタイトル	内容の説明
Solaris Reference Manual Collection	マニュアルページのセクションのタイトルを参照。	Solaris OS に関する情報を提供しています。
Solaris Software Developer Collection	リンカーとライブラリ	Solaris のリンクエディタと実行時リンカーの操作について説明しています。
Solaris Software Developer Collection	マルチスレッドのプログラミング	POSIX と Solaris スレッド API、同期オブジェクトのプログラミング、マルチスレッド化したプログラムのコンパイル、およびマルチスレッド化したプログラムのツール検索について説明します。

開発者向けのリソース

<http://developers.sun.com/prodtech/cc> にアクセスし、以下のようなリソースを利用できます。リソースは頻繁に更新されます。

- プログラミング技術と最適な演習に関する技術文書
- プログラミングに関する簡単なヒントを集めた知識ベース
- ソフトウェアのマニュアル、およびソフトウェアとともにインストールされるマニュアルの訂正
- サポートレベルに関する情報
- ユーザーフォーラム
- ダウンロード可能なサンプルコード
- 新しい技術の紹介

<http://developers.sun.com> でも開発者向けのリソースが提供されています。

技術サポートへの問い合わせ

製品についての技術的なご質問がございましたら、以下のサイトからお問い合わせください (このマニュアルで回答されていないものに限りです)。

<http://jp.sun.com/service/contacting>

第1章

インストールの準備

この章には、次のトピックに関する情報が含まれます。

- ソフトウェアのインストールの概要
- システム要件
- スワップ空間の追加
- インストーラのローカル表示とリモート表示の選択
- NFS マウントのファイルシステムへのインストール
- ゾーンを使用した Solaris 10 へのインストール
- このリリースに含まれるインストール機能

ソフトウェアのインストールの概要

この節では、Sun Studio 11 ソフトウェア、製品シリアル番号、およびサポートソフトウェアをインストールする一般的な手順の概要を説明します。個々の手順については、各ステップに示した参照先を参照してください。

タスク	内容の説明	参照先
1. Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール先のシステムが、このリリースの最低条件を満たしていることを確認します。	パフォーマンスを正常に維持するために、システム条件に合ったシステムを使用することをお勧めします。	2 ページの「システム要件」を参照してください。
2. ローカル表示とリモート表示のどちらでインストーラを表示するかを決定します。	Sun Studio ソフトウェアは、リモート表示またはローカル表示のどちらを使用してもインストールできます。	詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
3. システムが Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジーにアクセスできることを確認します。	Sun Studio 11 ソフトウェアは、Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジーをサポートします。	必要に応じて、20 ページの「J2SE プラットフォームおよび関連する Solaris オペレーティングシステムのパッチのインストール」を参照してください。
4. インストール方法を選択します。	Sun Studio ソフトウェアをインストールする方法は 4 通りあります。	詳細は、10 ページの「インストール方法の選択」を参照してください。
5. Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールします。	インストール手順を説明しています。	インストール手順については、9 ページの「Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール」を参照してください。

システム要件

Sun Studio 11 ソフトウェアのシステム要件は、表 1-1 に示すとおりです。

注 - このリリースに関するさらに詳しいディスク容量要件と重要な最新情報については、<http://docs.sun.com/doc/819-4820> から入手できる Sun Studio 11 ソフトウェアのリリースノート (Solaris プラットフォーム) を参照してください。

表 1-1 システム要件

	Solaris OS SPARC ベースシステム	Solaris OS x86 ベースシステム
オペレーティングシステム	Solaris 8、9、10	Solaris 8、9、10
CPU	SPARC アーキテクチャ: Sun Blade 2500 ワークステーションまたはそれ以上 (2 x 1.6 GHz UltraSPARC IIIi プロセッサ) を推奨 Sun Ultra 60 ワークステーション (450 MHz, UltraSPARC II プロセッサ) 以上	x86 アーキテクチャ (32bit) Intel Pentium III 500 MHz ワークステーション以上 x86 アーキテクチャ (64bit) Sun Java Workstation W2100z または AMD Opteron プロセッサ、2 x 2.6 GHz 200 シリーズ 以上を推奨 Sun Fire V20z Server 以上
ディスク容量	1.5G バイト以上 (ディスク領域を確認するには、 <code>df -k</code> コマンドを使用してください。)	925M バイト以上
メモリー	1G バイトを推奨 512M バイト以上	
スワップ空間	2 G バイトを推奨 1 G バイト以上	
J2SE テクノロジ	J2SE 1.4.2_08 テクノロジまたは J2SE 5.0 Update 3 テクノロジ、および必須 OS パッチ	
オペレーティングシステム構成	全体ディストリビューションと OEM サポート、全体ディストリビューション、または開発者システムサポート (オペレーティングシステム構成を確認するためには、インストールしたパッケージを確認する必要があります。それぞれの構成に固有のパッケージがインストールされます。詳細は Solaris OS のインストールマニュアルを参照してください。)	

*スワップ空間のチェックには、`swap -s` コマンドを使用してください。

スワップ空間の追加

スワップ空間を追加するには、以下を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. スワップ空間を追加するために、次のコマンドで特定のディレクトリにファイルを作成します。

```
mkfile number [m|k|b] /directory/swap-file-name
```

ここで、*number* はスワップ空間の容量を指定し、それに続けて容量の単位 (M バイトの場合は m、K バイトの場合は k、ブロックの場合は b) を入力します。*directory* では、スワップ空間の追加権限が与えられているディレクトリを指定します。*swap-file-name* ディレクトリでは、作成するスワップファイルの名前を指定します。

たとえば、foo ディレクトリに 16mswap という名前の 16 Mバイトのスワップファイルを作成するには、次のようにします。

```
# mkfile 16m /foo/16mswap
```

詳細は、mkfile(1M) のマニュアルページを参照してください。

3. 次のように入力し、ファイルが作成されたかどうか確認します。

```
# ls -l /directory/swap-file-name
```

新しいファイルがディレクトリに表示されます。次に例を示します。

```
# ls -l /foo/16mswap
-rw-----T  1 root    other    16777216 Dec 12 14:24 /foo/16mswap
```

4. swap コマンドを実行し、追加するスワップ空間を指定します。

```
# swap -a /directory/swap-file-name
```

5. 次のように入力し、スワップ空間が追加されたかどうか確認します。

```
#swap -s
```

出力には、割り当てられたスワップ空間が表示されます。次に例を示します。

```
#swap -s  
合計: 289336k バイト割り当て済み + 27008k 予約済み = 316344k 使用済み,  
298336k 使用可
```

インストーラのローカル表示とリモート表示の選択

グラフィカルユーザーインタフェースインストーラまたはコマンド行インストーラを使用した Sun Studio 11 のインストールでは、インストーラをローカル表示またはリモート表示することができます。

- ローカル表示 - ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが同じです。製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルが存在し、インストーラを実行するコンピュータに、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。第 2 章に進みます。
- リモート表示 - ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが別々です。ソースコンピュータに製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルをセットしてインストーラを実行します。ディスプレイコンピュータではインストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。

リモート表示を使ってインストールを行う場合、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のコマンドを入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータ (製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (root) になります。

```
% rlogin source-computer-name -l rootname  
Password: root-password
```

3. ソースコンピュータで、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを表示先に設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY display-computer-name:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=display-computer-name:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

display-computer-name には、ディスプレイコンピュータで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

NFS マウントのファイルシステムへのインストール

NFS マウントのファイルシステムに Sun Studio ソフトウェアをインストールするには、NFS パーティションがマウントされている場所に関係なく、サポートされているシステムでインストーラを実行する必要があります。次の手順では、サーバーは、インストールするソフトウェアが置かれる物理ディスクのあるマシン、クライアントは、インストーラを実行してサーバーからファイルシステムを NFS マウントするマシンです。

注 - NFS マウントのファイルシステムとして製品イメージを共有する最良の方法は、サポートされている 1 台のシステムからそのイメージをエクスポートすることです。サーバーでインストーラを実行し、ソフトウェアがインストールされているディレクトリを共有設定します。次の NFS インストール手順は、NFS サーバーが製品でサポートされているプラットフォームでない場合にのみ使用します。

NFS マウントのファイルシステムに Sun Studio ソフトウェアをインストールする準備をするには、以下の手順に従います。

1. サーバマシンで、適切なオプションを付けてファイルシステムを共有設定します。インストーラを実行するクライアントマシンの `root` は、NFS ファイルシステムに対する完全なアクセス権を持っている必要があります。

```
# share -F nfs -o root=client-machine,rw filesystem
```

2. クライアントマシンで、読み取り/書き込みアクセス権付きで共有ファイルシステムをマウントします。

```
# mount server-machine:filesystem installation-directory
```

たとえばクライアントマシン `foo` のインストールディレクトリ `/mnt` にファイルシステムをマウントします。

これで、クライアントマシンでグラフィカルユーザーインターフェイス形式のインストーラ、コマンド行形式のインストーラ、あるいはバッチ形式のインストーラを実行することによって Sun Studio 製品をインストールできます。グラフィカルユーザーインターフェイス形式またはコマンド行形式のインストーラの場合は、インストールディレクトリとして `/mnt` を選択します。バッチ形式のインストーラの場合は、`-d` オプションを使用し、インストールディレクトリとして `/mnt` を指定します。

バージョン 8、9、10 の Solaris OS のいずれかが動作しているマシンの場合は、ソフトウェアのインストールを終了すると、そのインストールされたサーバーからファイルシステムをマウントし、ソフトウェアを実行できます。ソフトウェアを実行するすべてのクライアントマシンに、適切な OS パッチがインストールされている必要があります (付録 B および 付録 C を参照)。

NFS マウントのファイルシステムにインストールされた Sun Studio ソフトウェアをアンインストールするには、インストールに使用したのと同じクライアントマシンでアンインストーラを実行する必要があります。このとき、アンインストーラを実行する前にファイルシステムをマウントしておいてください。

ゾーンを使用した Solaris 10 へのインストール

ゾーンを使用した Solaris 10 が稼動しているシステムの場合は、次の制限付きで Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールできます。

- Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントは、大域ゾーンまたは非大域ゾーンにインストールできますが、必ず製品をインストールする場所でインストーラを実行する必要があります。インストーラを実行したゾーンに製品がインストールされます。
- Sun Studio ソフトウェアに付属している Solaris OS パッチを大域ゾーンにインストールする必要があります。
- 大域ゾーンにインストールした Sun Studio ソフトウェアは、非大域ゾーンでは表示されません。

非大域ゾーンに Sun Studio ソフトウェアをインストールする場合は、以下の手順に従います。

1. 大域ゾーンでインストーラを実行し、Solaris OS パッチをインストールします。
2. ターゲットの非大域ゾーンでインストーラを実行し、Sun Studio 製品のコンポーネントをインストールします。

Solaris 10 のゾーンの詳細については、『Solaris のシステム管理』の「Solaris コンテナ: 資源管理と Solaris ゾーン」を参照してください。

このリリースに含まれるインストール機能

この Sun Studio 11 のリリースには、次のインストール機能が付属しています。

- グラフィカルユーザーインターフェースのインストール
- コマンド行のインストール
- バッチのインストール
- Solaris JumpStart™ インストール (Solaris 8 用はありません)
- J2SE ソフトウェアのインストール
- バッチのアンインストール
- グラフィカルユーザーインターフェースのアンインストール
- コマンド行のアンインストール

このマニュアルには、各機能を使用する手順が示されています。

第2章

Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール

この章では、Sun™ Studio 11 ソフトウェア をインストールするための具体的な手順について説明します。

注 – ソフトウェアのインストールに `pkgadd` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

旧リリースの Sun Studio と Sun ONE Studio のサポート

システムに Sun Studio ソフトウェアの他のリリースがインストールされている場合は、別のインストールディレクトリに Sun Studio 11 をインストールしてください。Sun Studio 10 update 1 Early Access ソフトウェアがインストールされている場合は、Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールする前に必ずアンインストールしてください。

インストールが完了したら、環境変数 `PATH` と `MANPATH` を修正して、新しいディレクトリを含めます。新しいリリースを使用するように変数を設定する方法の詳細は、21 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」を参照してください。

ダウンロードしたファイルのインストール

製品 Web サイトのダウンロードページから取得可能なドキュメント「Download Instructions」にファイルの詳しいダウンロードおよび抽出手順が記載されています。ダウンロードによって Sun Studio 11 ファイルを取得する場合は、このドキュメントの指示に従って作業を実行してから、製品のインストールを進めてください。

インストール方法の選択

Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールする方法は 4 通りあります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) インストーラを使用する。この手順については、11 ページの「GUI インストーラによるインストール」を参照してください。
- グラフィカルユーザーインターフェース機能が使用できない場合は、コマンド行インストーラを使用する。この手順については、15 ページの「コマンド行インストーラによるインストール」を参照してください。
- バッチインストーラを使用する (17 ページの「バッチインストーラによるインストール」を参照)。
- Solaris™ 9 オペレーティングシステム (Solaris OS) または Solaris 10 OS で Solaris JumpStart™ インストーラを使用する (19 ページの「Solaris JumpStart インストーラによるインストール」を参照)。このインストーラを使用すると、Sun Studio 11 ソフトウェアを複数のシステムにインストールする必要がある場合に、ソフトウェアインストールプロセスを自動化することができます。

Sun Studio ソフトウェアをインストールするときに使用する root (スーパーユーザー) アカウントには、PATH 環境変数に Java 2 Runtime Environment (JRE) 1.4.0 以降が指定されている必要があります。

- インストーラを実行するシステムに J2SE 1.4.0 以降がインストールされている場合は、root の PATH 環境変数に、この J2SE テクノロジーのパスを最初に設定してください。
- インストーラを実行するシステムに J2SE 1.4.0 以降がインストールされていない場合は、次の手順に従って、JRE 1.4.2_10 ソフトウェアをインストールしてください。
 - a. <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/download.html> から、JRE 1.4.2_10 バイナリ (32-bit self-extracting) をダウンロードします。

- b. <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/jre/install-solaris.html> の指示に従って、JRE ソフトウェアを任意の場所 (/usr/jdk 以外) にインストールします。
- c. JRE ソフトウェアへのパスを PATH 環境変数に追加します。

注 – CD-ROM 名は、studio_11_solsparc および studio_11_solx86 です。次の例では CD-ROM 名として studio_11_solarch を使用しています。

GUI インストーラによるインストール

ここでは、製品 CD-ROM で提供されているグラフィカルユーザーインターフェイスインストーラを使用して、Sun Studio 11 ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法を説明します。電子ダウンロードで製品を入手する場合は、製品 Web サイトのダウンロードページから入手できる「Download Instructions」のすべての指示に必ず従ってください。

注 – ソフトウェアのインストールに pkgadd コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su
Password: root-password
```

注 – スーパーユーザー (root) でログインしないでインストーラを起動した場合は、スーパーユーザー (root) でログインするようにインストーラから指示されます。

注 – ゾーンを使用した Solaris 10 が稼動しているシステムに Sun Studio 11 をインストールした場合は、正しい手順についての重要な情報を 8 ページの「ゾーンを使用した Solaris 10 へのインストール」で参照してください。

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。

製品のインストーラが起動します。

インストーラが起動しない場合、または Solaris™ 9 オペレーティング環境を使用している場合は、自動実行機能が無効になっているか、使用しているシステムがこの機能に対応していません。その場合、次のどちらかの方法でインストーラを起動します。

- ファイルマネージャウィンドウで、インストーラのアイコンをダブルクリックします。
- 次のコマンドを入力します。

```
# /cdrom/studio_11_solarch/installer
```

開始ページが表示されます。

4. (電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品 tar ファイルをダウンロードした場合は、以下の手順に従います。

- a. tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。
- b. ダウンロードディレクトリから、次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
# ./installer
```

開始ページが表示されます。

(Solaris Product Registry ツールを使用する場合) Solaris Product Registry ツールを使ってインストーラを起動できます。

- a. 次のコマンドを入力し、Product Registry ツールを起動します。

```
# prodreg
```

- b. 「新規インストール」をクリックします。
- c. 「インストーラの選択」ダイアログで、ダウンロードディレクトリまたは cdrom ディレクトリに移動して、インストーラを選択します。
- d. 「了解」をクリックして、インストーラを起動します。

開始ページが表示されます。

5. 開始ページで「次へ」をクリックします。

「初期化中」ページが表示されます。初期化が終わると、「ソフトウェアライセンス契約書」ページが表示されます。

6. 「ソフトウェアライセンス契約書」ページで「同意する」をクリックします。
「同意しない」を選択した場合、インストールを続行できません。
7. 「次へ」をクリックし、「コンポーネントの選択」ページに進みます。
8. 「コンポーネントの選択」ページで、各製品のインストール形式を選択します。
 - 「インストールしない」を選択した場合、該当する製品はインストールされません。
 - 「デフォルトインストール」を選択した場合、該当する製品のすべてのコンポーネントと、それらのコンポーネントに関連するすべてのオンラインドキュメントがインストールされます。
 - 「カスタムインストール」を選択した場合、インストールするサブコンポーネントを選択できます(手順 11)。

注 - 「Solaris パッチ」に対してデフォルトインストールを選択すると、Sun Studio 11 ソフトウェアに必要なパッチがすべてインストールされます。これらのパッチについては、付録 B を参照してください。これらのパッチがすでにインストールされている場合、必要なパッチを再びインストールしてもシステムの状態が古いものに戻ってしまうことはありません。

注 - ゾーンを使用した Solaris 10 が稼動しているシステムに Sun Studio 11 をインストールした場合は、大域ゾーンで必須パッチをインストールする必要があります。

9. 「次へ」をクリックし、「インストールディレクトリの選択」ページに進みます。
10. ソフトウェアのインストールディレクトリを `/opt` から変更するかどうかを決定します。

この新リリースの Sun Studio を旧リリースの Sun ONE Studio や Forte Developer と同じコンピュータにインストールする場合は、9 ページの「旧リリースの Sun Studio と Sun ONE Studio のサポート」を参照してください。

 - ソースコンピュータの `/opt` ディレクトリにインストールする場合は、「次へ」をクリックします。ソースコンピュータの `/opt` ディレクトリに旧リリースの Sun Studio または Sun ONE Studio ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、別のインストールディレクトリを選択する必要があります。
 - ソースコンピュータの `/opt` 以外のディレクトリにインストールする場合、テキストフィールドに新しいインストール先を入力するか、ブラウザ機能を使って新しいインストール先を選択します。選択したディレクトリへの書き込み権限が与えられていない場合、権限を変更するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。権限を変更し、選択したディレクトリへの書き込みを許可しないと、インストールを続行できません。ディレクトリ権限の変更については、`chmod(1)` のマニュアルページを参照してください。

11. インストールディレクトリを入力したら、「次へ」をクリックします。

どの製品についても、「カスタムインストール」を選択しなかった場合は、手順 12 に進みます。

(カスタムインストールを選択した場合)「コンポーネントの選択」ページで「カスタムインストール」を選択した製品がある場合、それらの製品ごとに「サブコンポーネントの選択」ページが表示されます。

 - a. インストールするサブコンポーネントの横のチェックボックスをクリックして、そのサブコンポーネントを選択します。

ボックスにチェックマークの付いたサブコンポーネントがインストールされます。
 - b. 「次へ」をクリックし、インストールを続行します。

インストーラによって十分なディスク容量があるかどうかチェックされ、「インストールの準備完了」ページが表示されます。
12. `df -k` コマンドを使って、「インストールの準備完了」ページに示されたディスク容量がシステムで使用可能であることを確認します。製品のインストールに十分なディスク容量がある場合にディスク容量エラーメッセージが表示されたときは、エラーメッセージを無視してインストールを続行してください。
13. 「インストールの準備完了」ページに、インストールする製品が表示されていることを確認します。
 - インストールする製品が表示されている場合、「インストール開始」をクリックします。
 - インストールする製品を追加したい場合、「戻る」をクリックして「コンポーネントの選択」ページに戻ります。このページで選択を行い、「次へ」をクリックすると、「インストールの準備完了」ページに戻ります。

「インストール中」ページにインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。インストールが完了すると、「インストールの一覧」ページが表示されます。
14. 製品のインストールログファイルを参照したい場合、「インストールの一覧」ページで該当する製品の「詳細」ボタンをクリックします。
15. 「製品登録」ページで製品登録に関する説明に目を通し、「次へ」をクリックします。
16. 「インストールの後で」ページでログファイルおよび製品の実行方法に関する説明に目を通します。
17. 「終了」をクリックして、Sun Studio 11 ソフトウェアのインストールを完了します。
18. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。

19. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

20. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

21. Sun Studio 11 ソフトウェアツールとマニュアルページにアクセスできるようにするには、21 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。
22. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に ALL_PROXY 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、25 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

コマンド行インストーラによるインストール

ここでは、コマンド行インタフェースを使用して Sun Studio 11 ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法について説明します。

注 – ソフトウェアのインストールに `pkgadd` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

注 – スーパーユーザー (root) でログインしないでインストーラを起動した場合は、スーパーユーザー (root) でログインするようにインストーラから指示されます。

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。

GUI インストーラが起動した場合は、「終了」をクリックしてインストーラを終了します。コマンド行でインストーラを再起動するには、次のように入力します。

```
# /cdrom/studio_11_solarch/installer -nodisplay
```

4. (電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品ファイルをダウンロードした場合は、以下の手順に従います。
 - a. tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。
 - b. ダウンロードディレクトリから、次のコマンドを入力して、コマンド行のインストーラを開始します。

```
# /download-directory/installer -nodisplay
```

インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

5. 起動メッセージが表示されます。Enter キーを押し、作業を続行します。
「ソフトウェアライセンス契約書」が表示されます。
6. キーボードによっては、Enter キーは Return キーと同じです。インストール中にデフォルトの選択項目を確定するには、Enter キーを押しします。
7. インストーラの指示に従ってインストールを完了します。インストールディレクトリの選択についての詳細は、11 ページの「GUI インストーラによるインストール」の手順 10 を参照してください。
8. インストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。ログファイルの確認が終了したら、「完了」の番号を入力します。
9. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。
10. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

11. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

12. Sun Studio 11 ソフトウェアツールとマニュアルページにアクセスできるようにするには、21 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。
13. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に ALL_PROXY 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、25 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

バッチインストーラによるインストール

Sun Studio 11 ソフトウェア、Sun Performance Library™ ソフトウェア、または Sun Studio Source Distribution ソフトウェアは、バッチインストーラによってデフォルトでのインストールを行うことができます。

注 – ソフトウェアのインストールに pkgadd コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

バッチインストールを行うには、次の手順を実行します。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを使用してバッチインストーラを実行します。

```
batch_installer [-d dirname | -R root-path] [-h]
```

batch_installer コマンドで使用可能なオプションについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 batch_installer のオプションとその説明

オプション名	オプションの説明
-d <i>dirname</i>	ディレクトリ <i>dirname</i> にインストールします。
-R <i>root-path</i>	ルートシステムと製品の絶対パスを指定します。このオプションは JumpStart インストールで使用して、ルートディレクトリを設定します。注：このオプションはバッチインストールでのみ使用してください。
-h	batch_installer コマンドの使用法を表示します。

batch_installer コマンドとオプションは、表 2-2 に示す方法で使用できます。

表 2-2 batch_installer コマンドとオプションの使用法

使用方法	プロンプトで入力するコマンド
デフォルトディレクトリにインストール	<code>#!/batch_installer</code>
デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにインストールします。	<code>#!/batch_installer -d /dirname</code>
ルートインストールを変更してインストールします。	<code>#!/batch_installer -R /a/opt</code>

4. 表 2-2 から適切なインストール方法を選択して、batch_installer コマンドを実行します。たとえば、デフォルト以外のディレクトリにインストールするには、次のように入力します。

```
# /cdrom/./batch_installer -d /dirname
```

ソフトウェアライセンス契約書が表示されて、ディスクの空き容量が十分かどうかチェックされます。インストールが続行されて、インストールが完了するとプロンプトに戻ります。

(電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品ファイルをダウンロードした場合は、次のように入力します。

```
# /download-directory/install-directory/batch_installer -d /dirname
```

5. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
% xhost - source-machine-name
```

6. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

7. PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。21 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」を参照してください。
8. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に ALL_PROXY 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、25 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

Solaris JumpStart インストーラによるインストール

Solaris 9 OS (SPARC プラットフォーム版) および Solaris 9 OS (x86 プラットフォーム版) の Solaris JumpStart™ インストーラを使用すると、ソフトウェアのインストールプロセスを自動化して、Sun Studio 11 ソフトウェアを複数のシステムにインストールすることができます。次に、JumpStart を使ったインストール手順の概要を示します。JumpStart インストールの詳細は、『Solaris インストールガイド』を参照してください。

注 – 次の手順で、コマンド行の例で使用される `cdrom_path` には、ダウンロードディレクトリの名前を置換してください。

1. ソースマシンの `swap` パーティションと `/opt` パーティションの両方に 1 G バイトを超えるディスク容量があることを確認します。
2. (ダウンロードの場合) ダウンロードしたファイルを `$SI_CONFIG_DIR` にコピーします。

3. ソースマシンに常駐する finish スクリプトを作成します。このファイルには、次の情報を入れる必要があります。

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/cdrom_path
./batch_installer -R /a
```

注 - batch_installer -d オプションは、JumpStart インストールでは機能しません。

使用可能な batch_installer オプションについては、17 ページの「バッチインストーラによるインストール」を参照してください。

JumpStart インストールプロセスの終了については、『Solaris インストールガイド』を参照してください。

J2SE プラットフォームおよび関連する Solaris オペレーティングシステムのパッチのインストール

Sun Studio 11 IDE (Integrated Development Environment: 統合開発環境) は、Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジー (J2SE™ テクノロジー) および関連する Solaris™ オペレーティングシステム (OS) のパッチをサポートします。

サポートされている J2SE テクノロジーがシステムにインストールされている場合は、インストーラの「コンポーネントの選択」ページに J2SE オプションは表示されません。

サポートされている J2SE テクノロジーがシステムにインストールされていない場合は、以下のインストーラの 1 つを使ってこれをシステムにインストールできます。

- SPARC® システム版 Solaris OS studio_11_solsparc_comp CD-ROM。companion CD-ROM を使い、11 ページの「GUI インストーラによるインストール」の指示に従って J2SE テクノロジーをインストールします。
- x86 システム版 Solaris OS studio_11_solx86 CD-ROM。製品のインストール時にデフォルトインストールを選択すると、J2SE テクノロジーがシステムにインストールされます。製品インストール時に J2SE テクノロジーをインストールしなかった場合は、インストーラを再度実行し、「コンポーネントの選択」ページで「J2SE SDK 1.4.2 Solaris OS Patches」を選択してください。

- 製品 Web サイトのダウンロードページからファイルをダウンロードできます。
`http://www.sun.com/software/products/studio/index.html`
tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。11 ページの「GUI インストーラによるインストール」の指示に従って、J2SE テクノロジーをインストールしてください。

インストールの成功の確認

インストールが完了したら、以下のいずれかの方法でインストールが成功したかどうかを確認できます。

- インストーラの「インストールの一覧」ページに情報を表示します。ここでは、インストールされた全製品が一覧表示されます。
- Solaris Product Registry を使ってインストールされた全製品を表示します。
`prodreg` と入力して Product Registry を開きます。
- インストールログファイルを表示します。
 - a. プロンプトに次のコマンドを入力し、`logs` ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/sadm/install/logs
```

- b. 次のコマンドを入力し、ファイルを表示します。

```
% more Sun_Studio_Software_install.A03200125
```

ファイル拡張子は、ログファイルによって異なります。

開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定

Sun Studio 11 ソフトウェアの製品コンポーネントおよびマニュアルページは、`/usr/bin/`、`/usr/share/man` の各システムディレクトリにインストールされます。このため、Sun Studio 11 ソフトウェアを使用できるようにするには、環境変数 `PATH` および `MANPATH` を変更する必要があります。

注 – この節で示しているパスは、Sun Studio 11 パッケージがデフォルトの /opt ディレクトリにインストールされていることを前提にしています。別のディレクトリにソフトウェアをインストールした場合は、例の中の /opt を該当するディレクトリ名に置き換えてください。

ホームの環境ファイルの PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。以下の例で C シェルを使用している場合は .cshrc ファイルが、Bourne シェルや Korn シェルを使用している場合は .profile ファイルが示されています。

PATH および MANPATH 環境変数については、SunOS™ マニュアルページに詳しい説明があります。C シェルの場合は csh(1) のマニュアルページ、Bourne シェルの場合は sh(1) のマニュアルページ、Korn シェルの場合は ksh(1) のマニュアルページを参照してください。また、MANPATH 変数については man(1) のマニュアルページを参照してください。

Sun Studio 11 ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定

Sun Studio 11 ソフトウェアのコマンドを使用するには、PATH 環境変数に /opt/SUNWspro/bin というパスを含める必要があります。PATH 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、PATH 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. 出力を参照し、パス文字列に /opt/SUNWspro/bin というパスが含まれているかどうかを確認します。
 - このパスが含まれている場合、PATH 変数は Sun Studio 11 ソフトウェアのツールにアクセスできるように設定されています (パス /opt は別のインストールパスに置き換えることができます)。
 - このパスが含まれていない場合、手順 3 に従って PATH 変数を設定します。
3. パス /opt/SUNWspro/bin を PATH 環境変数に追加します。旧バージョンの Sun Studio、Sun ONE Studio または Forte Developer ソフトウェアをインストールしている場合は、旧バージョンのインストールのパスの前にパスを追加します。

注 – 例に示されたファイル名は、使用するホームの環境ファイル名で置き換えてください。

- C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.cshrc` ファイルを編集し、このパスを追加します。
- Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.profile` ファイルを編集し、このパスを追加します。

Sun Studio 11 のマニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定

`man` コマンドを使用して Sun Studio 11 ソフトウェアのマニュアルページにアクセスするには、`MANPATH` 環境変数に `/opt/SUNWspro/man` というパスを含める必要があります。`MANPATH` 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、`dbx(1)` のマニュアルページを表示します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

`man dbx` コマンドで `dbx(1)` のマニュアルページが見つからないか、インストールしたソフトウェアとは別のバージョンのマニュアルページが表示された場合は、`MANPATH` 変数が正しく設定されていません。その場合は、次の手順に従って `MANPATH` 変数を設定します。

3. パス `/opt/SUNWspro/man/` を `MANPATH` 環境変数に追加します。
 - C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.cshrc` ファイルを編集し、このパスを追加します。
 - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.profile` ファイルを編集し、このパスを追加します。

環境変数の変更

この節では、Sun Studio 11 ソフトウェアのツールとマニュアルページのパスを適切な環境変数に永久的に追加し、Sun Studio 11 のすべてのコンポーネントを常に使えるようにする手順を説明します。ここで示しているコマンドをシェルプロンプトから入力し、そのシェルだけで一時的に使えるようにすることもできます。

1. 自分の `PATH` および `MANPATH` に Sun Studio 11 ソフトウェアのパスを追加します。

注 - 各ユーザーがインストールされたソフトウェアを使用できるようにするには、PATH 変数と MANPATH 変数を設定して、Sun Studio 11 ソフトウェアのパスを各ユーザーの環境に組み込む必要があります。

- C シェル (csh) を使用している場合、まず MANPATH 変数が設定されているかどうかを確認します。シェルプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
% echo $MANPATH
```

「未定義の変数 (Undefined variable)」という応答が返されたり (C シェル)、空白行が表示されたりした場合は (Bourne シェルまたは Korn シェル)、MANPATH 変数が設定されていません。マニュアルディレクトリのパスが表示された場合、この変数はすでに設定されています。

次にホームディレクトリの .cshrc ファイルを編集し、ファイルの末尾に次の行を追加します。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin $path)
```

MANPATH 変数が設定されていない場合、さらに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:/usr/share/man
```

MANPATH 変数が設定済みの場合は、代わりに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:$MANPATH
```

- Bourne シェル (sh) または Korn シェル (ksh) を使用している場合は、ホームディレクトリの .profile ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
PATH=/opt/SUNWspro/bin${PATH:+:}$PATH  
MANPATH=/opt/SUNWspro/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

これらの 2 行に空白を入力しないでください。

2. 手順 1 で修正した .cshrc ファイルまたは .profile ファイルを保存します。

3. 次のコマンドを実行し、シェルを初期化し直します。

C シェルの場合

```
source ~/.cshrc
```

Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
. ~/.profile
```

プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用

アップデート通知機能は、定期的に www.sun.com をチェックして、Sun Studio ソフトウェアに関連するパッチやメジャーソフトウェアアップデートなどの、利用可能な変更情報を通知します。

アップデートファイルの現在の内容を表示するには、「ヘルプ」→「製品の更新情報を表示」を選択します。

サーバーとの接続を開始してアップデート情報を入手するには、「ヘルプ」→「製品の更新情報の有無を確認」を選択します。

コマンド行を使用すると、`~/.sunstudio/user_info/latest_updates.html` でアップデートファイルを表示することができます。

システムがプロキシサーバーでネットワークに接続されているのにアップデート通知機能が確認できない場合は、次の手順でプロキシサーバー情報を設定できます。

1. 「ツール」→「セットアップウィザード」を選択します。
2. ウィザードで、「HTTP プロキシサーバーを使用する」チェックボックスを選択します。
3. 「プロキシサーバー名」フィールドにプロキシホスト名を入力し、「ポート」フィールドにポート番号を入力します。
4. 「完了」をクリックします。

プロキシサーバー情報は ALL_PROXY 環境変数を使用しても設定できます。次に例を示します。

```
setenv ALL_PROXY myproxy:8080
```

注 – IDE を再起動し、プロキシサーバー情報を認識させる必要があります。

アップデート通知機能を無効にするには、SUNW_NO_UPDATE_NOTIFY 環境変数を false 以外の値にします。

アップデート通知機能のプロセスの実行中は、使用状況に関する情報が通知されます。この情報は、Sun Studio ソフトウェアの将来のリリースの改善のために、Sun Microsystems によって使用されます。この情報は匿名で、いかなる個人または組織にも関連付けられることはありません。

第3章

Sun Studio 11 IDE の起動と設定

この章では、システムで Sun Studio 11 統合開発環境 (IDE) をソフトウェアをシステムで実行、設定する方法を説明します。

IDE の起動

Sun Studio 11 ソフトウェアをシステムにインストールし、Java™ 2 Standard Edition (J2SE™) テクノロジをシステムにインストールするか、または J2SE テクノロジがインストールされているネットワーク上の場所へのパスを設定したら、ソフトウェアを使用できます。製品を起動するには、以下の手順に従います。

- プロンプトで、以下のように入力します。

```
% sunstudio
```

注 – コマンドへのフルパスは
/installation-directory/SUNWspro/bin/sunstudio です。

サポートされている J2SE テクノロジをソフトウェアが検出できないと、エラーメッセージが表示されます。sunstudio コマンドを実行すると、PATH およびシステムのいくつかの標準的な場所で J2SE テクノロジが検索されます。J2SE テクノロジがシステムにインストールされていない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- --jdkhome オプションを付けて sunstudio コマンドを使い、ネットワーク上の J2SE テクノロジへのパスを指定します。
- ネットワーク上の J2SE テクノロジへのパスに JDK_HOME 環境変数を設定します。シェルを初期化し直してから、sunstudio コマンドを再度入力します。

sunstudio コマンドで利用できるオプションの詳細については、sunstudio (1) のマニュアルページを参照してください。IDE の使い方の詳細は、『統合開発環境 (IDE) Readme』を参照してください。

設定ウィザードの使い方

設定ウィザードは、IDE の開始画面で「設定ウィザード」ボタンをクリックして開くことができます。また、「ツール」->「設定ウィザード」を選択して、設定ウィザードを開くこともできます。設定ウィザードでは、一般的な Sun Studio 11 の設定とテキストエディタの優先設定を指定できます。

「Sun Studio 基本設定」ページでは、「ウィンドウモード」、「Web ブラウザ」、および「Web プロキシ」を設定できます。「ウィンドウモード」で、優先表示を選択します。「Web ブラウザ」には、外部ブラウザ (UNIX[®]) を選択することが推奨されます。IDE を通して外部 Web ページを表示する必要がある場合は、「Web プロキシ」も指定する必要があります。

「テキストエディタの設定の変更」ページで、テキストエディタを選択できます。デフォルトでは「組み込みエディタ」が選択されます。

設定ウィザードの「モジュールのインストール」ページと「アップデートセンター」ページは、Sun Studio 11 IDE に組み込まれていません。「Sun Studio 基本設定」と「テキストエディタの設定の変更」で設定を選択したら、「完了」ボタンをクリックして設定を保存し、設定ウィザードを終了できます。

IDE の開始画面には、「IDE の使用」セクションやチュートリアルなど、IDE の使用を開始する際に参考になるリンクのリストが表示されます。コンパイラのマニュアルの表示方法についての詳細は、xv ページの「Sun Studio マニュアルへのアクセス方法」を参照してください。

登録ウィザードの使い方

登録ウィザードは、IDE を最初に実行したときに開きます。登録ウィザードは、「ヘルプ」->「登録ウィザード」をクリックして開くことができます。このほか、オンライン、FAX、または郵送での登録が可能です。

システム管理者への注意

Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールしたら、ソフトウェアを使用する開発者に電子メールを送信します。電子メールのテンプレートは、以下のディレクトリに格納されています。

`/installation-directory/SUNWspro/READMEs/email_template.txt`

電子メールのテンプレートを使って、以下の情報を提供できます。

- ローカル環境変数の設定
- IDE の起動
- 製品マニュアルの格納場所
- J2SE テクノロジーのローカルインストール

Sun Studio 11 ソフトウェアを使用する各開発者の環境パスに J2SE テクノロジーを含める必要があります。開発者は J2SE テクノロジーをローカルにインストールすることも、パス環境にマップすることもできます。開発者が J2SE 環境をインストールできるように、開発者が使用できるネットワークサーバーに `studio11-sol-arch-j2sdk.tar` ファイルをコピーするか、CD-ROM イメージをマウントしてください。開発者に送信する電子メールでは、J2SE インストーラへのパスを必ず示してください。

第4章

Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール

この章では、システムにインストールされている Sun™ Studio 11 ソフトウェア製品および関連パッチをアンインストールする方法について説明します。

ソフトウェアのインストール完了後、アンインストーラが自動的に作成されます。このアンインストーラを使用して Sun Studio 11 ソフトウェアを削除する方法は 4 通りあります。

- バッチアンインストーラを使用する方法。この方法では、サイレントモードですべての Sun Studio 11 ソフトウェアが削除されます。33 ページの「バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール」を参照してください。
- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) アンインストーラを使用する方法。この方法では、選択した Sun Studio 11 製品コンポーネントをアンインストールできます。34 ページの「GUI アンインストーラによるアンインストール」を参照してください。
- コマンド行アンインストーラを使用する方法。この方法では、選択した Sun Studio 11 製品コンポーネントを対話型またはサイレントモードでアンインストールできます。36 ページの「コマンド行アンインストーラによるアンインストール」を参照してください。
- Solaris Product Registry ツールを使用する方法。この方法では、選択した Sun Studio 11 製品コンポーネントをアンインストールできます。38 ページの「Solaris Product Registry ソフトウェアによるアンインストーラ」を参照してください。

注 – ソフトウェアのアンインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているアンインストーラを使用してください。

旧バージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール

Sun Studio 11 ソフトウェアとともに、Sun Studio 11 ソフトウェア製品以外の旧バージョンの Compiler Collection がインストールされているシステムでアンインストーラを実行すると、Sun Studio 11 ソフトウェアのみが削除されます。

アンインストーラのローカル表示とリモート表示の選択

Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストールでは、アンインストーラをローカル表示またはリモート表示することができます。

ローカル表示を使ってアンインストールを行う場合、34 ページの「GUI アンインストーラによるアンインストール」または 36 ページの「コマンド行アンインストーラによるアンインストール」に進みます。リモート表示を使ってアンインストールを行う場合、32 ページの「リモート表示によるアンインストールの準備」の手順を実行し、その後で 34 ページの「GUI アンインストーラによるアンインストール」または 36 ページの「コマンド行アンインストーラによるアンインストール」に進みます。

リモート表示によるアンインストールの準備

リモート表示を使ってアンインストールを行う場合、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のコマンドを入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータ (アンインストーラの実行先のコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (root) になります。

```
% rlogin source-computer-name -l rootname  
Password: root-password
```

3. ソースコンピュータで、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを表示先に設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY display-computer-name:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=display-computer-name:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

display-computer-name には、ディスプレイコンピュータ (アンインストーラの表示先のコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール

バッチアンインストーラは、サイレントモードですべての Sun Studio 11 ソフトウェアを削除します。

注 – システムにある J2SE テクノロジをアンインストーラが検出できない場合は、次の構文で `-j` オプションを使って、アンインストーラを実行する必要があります。

```
./batch_uninstall_all -j /usr/java1.2
```

これによってアンインストーラは、必要な J2SE 1.2 ソフトウェアを見つけることができます。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.studio_11
```

注 – 製品の Early Access バージョンをアンインストールする場合、アンインストーラのディレクトリは `/var/sadm/prod/com.sun.studio_10u1_ean` になります。

3. 次のように入力して、バッチアンインストーラを起動します。

```
# ./batch_uninstall_all
```

バッチアンインストーラが起動し、アンインストールが行われます。

GUI アンインストーラによるアンインストール

Sun Studio 11 のソフトウェア名と、アンインストールで使用するアンインストーラ `.class` ファイル名の関係を表 4-1 に示します。

表 4-1 ソフトウェア名とアンインストーラ `.class` ファイル名の関係

ソフトウェア名	アンインストーラの <code>.class</code> ファイル名
Sun Performance Library 8	<code>uninstall_Sun_Performance_Library.class</code>
ソース配布	<code>uninstall_Source_Distribution.class</code>
IDE およびツールソフトウェア	<code>uninstall_Sun_Studio_Software.class</code>
マニュアル	<code>uninstall_Documentation.class</code>

アンインストーラのクラスファイルの格納場所: `/var/sadm/prod/com.sun.studio_11`

アンインストーラを実行するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、アンインストーラディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.studio_11
```

3. **ls -l** と入力してアンインストーラ `.class` ファイル名の一覧を表示するか、または表 4-1 を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラの `.class` ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラの `.class` ファイル名を使用し、次のコマンドでアンインストーラを起動します。

注 – これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。

```
# /usr/bin/java uninstall_uninstaller-class-file-name
```

たとえば、Sun Studio 11 ソフトウェアを削除するには、次のように入力します。

```
# /usr/bin/java uninstall_Sun_Studio_Software
```

アンインストールウィンドウが表示されます。開始ページにアンインストールする製品が表示されます。

5. 開始ページで「次へ」をクリックし、アンインストール作業を続行します。
「アンインストール形式を選択してください」ページが表示されます。
6. 「アンインストール形式を選択してください」ページで、アンインストール形式を選択します。
製品のコンポーネントをすべてアンインストールする場合、「全体」を選択します。
「次へ」をクリックし、手順 8 に進みます。
製品の一部のコンポーネントだけをアンインストールする場合、「部分」を選択します。
「次へ」をクリックし、手順 7 に進みます。
7. 「コンポーネントの選択」ページで、アンインストールしたくないコンポーネントの選択を解除します (チェックボックスをクリックしてチェックマークを消します)。
「次へ」をクリックし、作業を続行します。

8. 「アンインストールの準備完了」ページで、「アンインストール開始」をクリックします。
「アンインストール中」ページにアンインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。アンインストールが完了すると、「アンインストールの一覧」ページが表示されます。「詳細」ボタンをクリックし、ログファイルを参照します。
9. 「終了」をクリックしてアンインストーラを終了します。
10. (オプション) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

11. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

コマンド行アンインストーラによるアンインストール

コマンド行でソフトウェア製品を削除するには、次の手順に従ってください。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.studio_11
```

3. `ls -l` と入力してアンインストーラ `.class` ファイル名の一覧を表示するか、または表 4-1 を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラ `.class` ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラの `.class` ファイル名を使用し、次のコマンドでコマンド行アンインストーラを起動します。

注 – これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。

- 製品をアンインストールするには、対話型のコマンド行アンインストーラを使用します。たとえば、Sun Studio 11 ソフトウェアをアンインストールするには、次のように入力します。

```
# /usr/bin/java uninstall_Sun_Studio_Software -nodisplay
```

アンインストールする製品が表示されます。手順 5 に進みます。

- プロンプトを表示しないで (サイレントモードで) 製品全体をアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
# /usr/bin/java uninstall_uninstaller-class-file-name -nodisplay -noconsole
```

製品がアンインストールされ、アンインストーラが終了します。手順 7 に進みます。

5. Enter キーを押し、作業を続行します。
6. コマンド行の指示に従ってアンインストールを完了します。
7. アンインストールが完了して、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを見ることができます。確認作業が終了したら、「完了」の番号を入力します。
アンインストーラが終了します。
8. (省略可能) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

9. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

Solaris Product Registry ソフトウェアによるアンインストーラ

Solaris Product Registry ツールを使ってアンインストーラを起動できます。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. プロンプトで、以下のように入力します。

```
# prodreg
```

3. 「登録されているソフトウェア」欄から、アンインストールするソフトウェアコンポーネントを選択します。
4. 「アンインストール」ボタンをクリックして、アンインストーラを開きます。
5. 「警告」ダイアログでアンインストールするコンポーネントを確認し、「了解」をクリックします。
6. (オプション) 対話式アンインストーラを使用するように指示される場合があります。アンインストーラウィザードの指示に従って、アンインストールを完了します。

第5章

障害追跡

この章では、Sun™ Studio 11 ソフトウェアのインストール時やアンインストール時に発生する問題に対処する方法について説明します。

シンボリックリンクを使ってアクセスされるディレクトリへのインストール

パスの一部がシンボリックリンクになっているディレクトリに、製品をインストールできません。シンボリックリンクによってアクセスされるパスへのインストールの例として、デフォルトディレクトリ /opt に十分なディスク容量がない場合があげられます。インストーラにこのシンボリックリンクを使用させ、実際のファイルシステムに製品がインストールされないようにするには、次の手順を実行する必要があります。

注 – たとえば、/opt にインストールする場合、次の手順では、/opt/SUNWspro というシンボリックリンクを作成し、そのシンボリックリンクで /export/opt/SUNWspro を指し示すことができます。例に示した名前は使用するディレクトリ名で置き換えることができます。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、既存のシンボリックリンクを保存します。

```
# mv /opt/SUNWspro /mytemp
```

3. 次のコマンドを入力し、マウントポイントとして使用する新しい /opt/SUNWspro ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /opt/SUNWspro
```

4. 次のコマンドでターゲットディレクトリをマウントし、このディレクトリを /opt/SUNWspro として使用できるようにします。

```
# mount -F lofs localhost:/export/opt_SUNWspro /opt/SUNWspro
```

5. 製品を /opt ディレクトリにインストールします。
6. 次のコマンドを入力し、ターゲットディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /opt/SUNWspro
```

7. 次のコマンドを入力し、空の /opt/SUNWspro マウントポイントを削除します。

```
# rmdir /opt/SUNWspro
```

8. 手順 2 で移動しておいたシンボリックリンクを元の場所に戻します。

```
# mv /mytemp /opt/SUNWspro
```

9. 次のコマンドを入力し、スーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

製品レジストリの問題

インストール時やアンインストール時に問題が発生すると、productregistry ファイルが破壊されることがあります。Solaris™ Product Registry ツールを使用すると、このような問題を特定・修正できる場合があります。

インストールが失敗した場合の確認および対処法

正しくインストールされなかったパッケージがあると、Sun™ Studio ソフトウェアを使用する際に問題が起きます。たとえば、pkgadd コマンドでソフトウェアをインストールすると、productregistry ファイルが破壊されてしまいます。すべてのパッケージが正しくインストールされたかどうかを確認するには、次のようにします。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
% /usr/bin/prodreg &
```

3. ツールの左側の区画で、「登録されているソフトウェア」という見出しの下にあるリストを参照します。
製品名の隣に黄色い三角形のマークが付いている場合、その製品は正しくインストールされていません。
4. 正しくインストールされていない製品を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。
「アンインストール失敗」ダイアログが表示されます。
5. ダイアログに表示されたメッセージに目を通し、製品をアンインストールしてもよい場合は、「了解」をクリックします。
「対話式アンインストール」ダイアログが表示されます。
6. 続けて表示されるダイアログの指示に従い、アンインストールを完了します。
アンインストールが完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

アンインストールが失敗した場合の対処法

製品ファイルがすべて削除される前にアンインストーラが終了した場合、アンインストーラを実行し直しても、残りの製品ファイルは削除されません。productregistry ファイルでは、これらの製品ファイルが削除されたと記録されるため、アンインストーラでは残りのファイルを削除できません。製品ファイルを完全に削除するには、Solaris Product Registry ツールを次のように使用します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
# /usr/bin/prodreg &
```

3. ツールの左側の区画で、SS18 または Sun Studio 11 という文字列を含んでいる製品名をすべて選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。
「アンインストール失敗」ダイアログが表示されます。
4. ダイアログに表示されたメッセージに目を通し、製品をアンインストールしてもよい場合は、「了解」をクリックします。
「対話式アンインストール」ダイアログが表示されます。
5. 続けて表示されるダイアログの指示に従い、アンインストールを完了します。
アンインストールが完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

productregistry ファイルが破壊された場合の対処法

41 ページの「インストールが失敗した場合の確認および対処法」または 41 ページの「アンインストールが失敗した場合の対処法」の手順でインストールまたはアンインストールの失敗を修正しても、まだ問題が解決されない場合、破壊された productregistry ファイルをシステムから削除します。通常、productregistry ファイルが破壊されるのは、pkgadd コマンドや pkgrm コマンドを使ってソフトウェアのインストールやアンインストールを行おうとした場合です。

注 - productregistry ファイルを削除すると、Sun Studio 11 ソフトウェアのエントリと Solaris オペレーティングシステム (OS) や他の製品のレジストリエントリが削除されてしまいます。まず始めに 41 ページの「インストールが失敗した場合の確認および対処法」および 41 ページの「アンインストールが失敗した場合の対処法」の手順を確認してから、次の手順に進んでください。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. プロンプトに次のコマンドを入力し、productregistry ファイルに移動します。

```
% cd /var/sadm/install
```

3. 次のコマンドを入力し、productregistry ファイルを削除します。

```
# rm productregistry
```

4. 次のコマンドを入力し、スーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

productregistry ファイルの削除が完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

インストールログファイルの参照方法

Sun Studio ソフトウェアをインストールすると、インストールの記録を保存したログファイルが自動的に作成されます。

ログファイルを参照してインストールの問題を追跡するには、次の手順を実行します。

1. プロンプトに次のコマンドを入力し、logs ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/sadm/install/logs
```

2. 次のコマンドを入力し、ファイルを表示します。

```
% more Sun_Studio_Software_install.A03200125
```

ファイル拡張子は、ログファイルによって異なります。

リモート表示によるインストール

次のトピックでは、リモート表示インストール中に発生する可能性がある問題を示します。

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合は、そのファイルシステムに対する書き込み権があるかどうかを確認してください。書き込み権は、次の手順を実行して確認できます。NFS マウントファイルシステムでのインストールの詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。

1. 次のコマンドを実行して、書き込み権があるかどうかを確認します。

```
% touch /net/remote-system/opt/testfile
```

エラーメッセージが表示された場合、書き込み権はありません。次に例を示します。

```
% touch /net/harker/opt/testfile
touch: /net/harker/opt/testfile を作成できません。
```

2. 書き込み権を持つ別のインストールディレクトリを選択するか、またはファイルシステムのアクセス権を変更するようにシステム管理者に依頼してください。

リモート表示インストール中に ToolTalk ソフトウェアセッションを初期化する方法

グラフィカルユーザーインターフェースのインストーラがインストール中に停止した場合は、次の手順を実行して、ToolTalk™ ソフトウェアセッションを初期化することができます。

1. インストーラを終了します。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力します。

```
# /usr/dt/bin/ttsession -c
```

4. \$DISPLAY が設定されていることを確認します。
5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」および 6 ページの「NFS マウントのファイルシステムへのインストール」の各節に、リモート表示を設定する方法の説明があります。
5. 次のコマンドを入力してインストーラを起動します。

```
# /cdrom/studio_8_sol_arch/installer
```

第 2 章の手順に従ってインストールを完了します。

バッチインストーラが停止した場合の対処法

バッチインストーラの起動時に無効なパラメータを入力すると、インストーラが停止してインストールは完了しません。一般的なエラーとしては、無効なシリアル番号を入力した、2 つの異なるディレクトリ名を指定した、またはディスク容量が不足しているときにインストーラを起動したことなどがあげられます。

バッチインストールを再起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力してログファイルを参照して、エラーメッセージがないかを確認します。

```
% cd /var/sadm/install/logs
```

2. インストーラを停止するには、Control+C を押します。
3. バッチインストーラを使用して製品をインストールする場合は、第 2 章の 17 ページの「バッチインストーラによるインストール」を参照してください。

付録 A

Sun Studio 11 のコンポーネントと パッケージ

この付録では、ソフトウェア開発に使用できる Sun Studio 11 ソフトウェア製品に関する情報を示します。この付録では、各製品を構成するコンポーネントとパッケージもリストしています。

表 A-1 は、SPARC システム版 Solaris OS 用の Sun Studio 11 ソフトウェアのメタクラスとパッケージの構成およびコンポーネントの情報を示しています。コンポーネント名は大文字で表記しています。いくつかのコンポーネントが他のコンポーネントのパッケージリストに表示されます。たとえば、SPROLANG コンポーネントは、SPROCC コンポーネントのパッケージリストと、SPROCCC コンポーネントのパッケージリストの両方に含まれています。これは、SPROLANG コンポーネントに含まれているすべてのパッケージが、SPROCC コンポーネントと SPROCCC コンポーネントの両方に含まれていることを示しています。

表 A-2 は、x86 システム版 Solaris OS 用の Sun Studio 11 ソフトウェアのメタクラスとパッケージの構成およびコンポーネントの情報を示しています。コンポーネント名は大文字で表記しています。いくつかのコンポーネントが他のコンポーネントのパッケージリストに表示されます。たとえば、SPROLANG コンポーネントは、SPROCC コンポーネントのパッケージリストと、SPROCCC コンポーネントのパッケージリストの両方に含まれています。これは、SPROLANG コンポーネントに含まれているすべてのパッケージが、SPROCC コンポーネントと SPROCCC コンポーネントの両方に含まれていることを示しています。

表 A-1 SPARC システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ

Solaris 用 Sun Studio 11 IDE (metaclust=SPROMSTUDIO)
Sun Studio 11 コンパイラ C (SPROCC)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 C コンパイラ (SPROcc)
Sun Studio 11 update 1 の共通ツール (SPROutool)
C の Sun Studio 11 update 1 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcc)
Sun Studio 11 update 1 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcom)
Sun Studio 11 update 1 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 update 1 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrctcv)
Sun Studio 11 update 1 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
Sun Studio 11 update 1 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
ソースブラウザの Sun Studio 11 update 1 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 ソースブラウザ (SPROsbe)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 コンパイラ C++ (SPROCCC)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 コンパイラ C++ (SPROCPL)
Sun Studio 11 の共通ツール (SPROutool)
Sun Studio 11 update 1 C++ Complex Library (SPROcmpl)
Sun Studio 11 update 1 Tools.h++ 7.1 (SPROTL7)
C++ の Sun Studio 11 update 1 標準ライブラリ (SPROSCL)
C++ の Sun Studio 11 update 1 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcpl)
Sun Studio 11 update 1 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcom)
Sun Studio 11 update 1 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 update 1 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrctcv)
Sun Studio 11 update 1 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
ソースブラウザの Sun Studio 11 update 1 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 update 1 ソースブラウザ (SPROsbe)
Sun Studio 11 update 1 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
Sun Studio 11 STLport (SPROSTLPORT)
Misc ファイル (SPROCMISC)

表 A-1 SPARC システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun Studio 11 コンパイラ Fortran 95 (SPROCFOR)
Sun Studio 11 コンパイラ FORTRAN 77 ツール (SPROftool)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 Fortran 95 ライブラリ (SPROLIB90)
Sun Studio 11 コンパイラ Fortran 90 (SPROf90)
Sun Studio 11 の共通ツール (SPROOutool)
Fortran 95 の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrftn)
Sun Studio 11 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcom)
Sun Studio 11 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrctv)
Sun Studio 11 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
Sun Studio 11 dmake のマニュアルページ (SPROmrchk)
ソースブラウザの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 ソースブラウザ (SPROsbe)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 コンパイラ Fortran 95 レガシーライブラリ (SPROCFORL)
Sun Studio 11 FORTRAN 77 動的ライブラリ (SPROl77s)
Sun Studio 11 FORTRAN 77 64 ビット動的ライブラリ (SPROl77sx)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ (SPROCLGC)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ (SPROLGC)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ 64 ビットライブラリ (SPROLGCX)
Sun Studio 11 LockLint (SPROCLKLT)
Sun Studio 11 LockLint (SPROlklnt)
MT ツールの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrmp)
Sun Studio 11 DBX デバッグツール (SPROCDXB)
Sun Studio 11 デバッグツール (SPROdbx)
Sun Studio 11 デバッグツール 64 ビット (SPROdbxx)
Sun Studio 11 デバッグツール (SPROjdbx)
Sun Studio 11 デバッグツール 64 ビット (SPROjdbxx)
dbx の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrdbx)
Misc ファイル (SPROCMISC)

表 A-1 SPARC システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun Studio 11 パフォーマンスツール (SPROCPRFT)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザツール (SPROprfan)
パフォーマンスツールの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrpan)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64 ビットツール (SPROprfax)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザライブラリ API (SPROprflb)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64 ビットライブラリ API (SPROprflx)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary バイナリ (SPROdwrfb)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary 64 ビットバイナリ (SPROdwrfx)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary のマニュアルページ (SPROmrdfw)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ GUI (SPROprfgn)
アナライザ GUI の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrpgn)
Sun Studio 11 デモ (SPROCDEMO)
Sun Studio 11 コンパイラの使用例とプログラム (SPROdemo)
Sun Studio 11 構築ソフトウェア (SPROCBLD)
Sun Studio 11 分散 make (SPROdmake)
Sun Studio 11 dmake のマニュアルページ (SPROmrdmk)
Sun Studio 11 デモ (SPROCDEMO)
Sun Studio 11 ツールの使用例とプログラム (SPROtdemo)
Sun Studio 11 IDE (SPROCIDE)
Sun Studio 11 IDE README (SPROmrde)
Sun Studio 11 dbx GUI プラグイン (SPROdbxui)
Sun Studio 11 GUI インタフェースサポート (SPROsvc)
Sun Studio 11 X-Designer プラグイン (SPROxdplg)
Sun Studio 11 ブランディングファイル (SPROidext)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツール (SPROjnsnb)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツール実行時 (SPROjnsrt)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツールサポート (SPROjnsup)
Sun Studio 11 Exuberant CTags Binary Distribution (SPROctags)
Sun Studio 11 NetBeans (SUNWnbide)
Sun Studio 11 cpp Module Binary Distribution (SUNWnbcpp)
Sun Studio 11 External Editor Module Binary Distribution (SUNWexted)
Sun Studio 11 登録ツール (SPRONbreg)
Sun Studio 11 X-Designer (SPROCXD)
X-Designer GUI ビルダー (SPROfdxd)
X-Designer のマニュアルページとオンラインヘルプ (SPROmrxd)

表 A-1 SPARC システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun	フリーウェアエディタ (SPROCED)
	Sun Studio 11 VIM 外部エディタ (SPROgvim)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 (SPROxmbin)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 (SPROxmshr)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - Source Distribution (SPROxmsrc)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - マニュアル (SPROmrxm)
Sun Studio 11	マニュアルセット (metaclust=SPROMDOCS)
	Sun Studio 11 マニュアルセット (SPROCDPCS)
	Sun Studio 11 著作権と画像 (SPROhtbas)
	Sun Studio 11 Tools.h++ 7.1 のマニュアル (SPROhttl7)
	Sun Studio 11 標準ライブラリ C++ のマニュアル (SPROhtstd)
	Sun Studio 11 XDesigner のマニュアル (SPROhtxd)
Sun Studio 11	Sun Performance Library (metaclust=SPROMPLIB)
	Sun Performance Library (SPROCPERF)
	Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
	Sun Studio 11 Fortran 95 ライブラリ (SPROLIB90)
	Sun Performance Library の Sun Studio 11 マニュアルページ (SPROmrpl)
	Sun Studio 11 PerfLib の共通コンポーネント (SPROplg)
	Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
	Sun Studio 11 Performance アーカイブライブラリ (SPROPL)
	Sun Studio 11 Performance 共用ライブラリ (SPROPLS)
	Sun Studio 11 区間演算ライブラリの共通コンポーネント (SPROiplg)
	Sun 区間演算ライブラリの Sun Studio 11 マニュアルページ (SPROmripl)
	Sun Studio 11 区間演算ライブラリ 32 ビット (SPROipl)
	Sun Studio 11 区間演算ライブラリ 64 ビット (SPROiplx)
	Sun Studio 11 PerfLib レガシーライブラリ検査 (SPROplck)
Sun Studio 11	Source Distribution (metaclust=SPROMSRC)
	DwarfLibrary Source Distribution (DWSRC)
	Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary ソース (SPROdwrf)
	Red-Black ツリーライブラリ Source Distribution (RDBLKSRC)
	Sun Studio 11 Red-Black_Tree_Library ソース (SPROdbks)
	Sun Studio 11 STLport Source Distribution (STLSRC)
	Sun Studio 11 STLPort バージョン 4 ソース (SPROstl4h)
	Exuberant CTags Source Distribution (CTGSRC)
	Sun Studio 11 Exuberant ctags source (SPROctsrc)

表 A-2 x86 システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 update 1 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ

Solaris 用 Sun Studio 11 IDE (metaclust=SPROMSTUDIO)
Sun Studio 11 コンパイラ C (SPROCC)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 C コンパイラ (SPROcc)
Sun Studio 11 の共通ツール (SPROutool)
C の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrc)
Sun Studio 11 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcm)
Sun Studio 11 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrctv)
Sun Studio 11 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
ソースブラウザの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 ソースブラウザ (SPROsbe)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 コンパイラ C++ (SPROCCC)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 コンパイラ C++ (SPROCPL)
Sun Studio 11 の共通ツール (SPROutool)
Sun Studio 11 C++ Complex Library (SPROcmpl)
Sun Studio 11 Tools.h++ 7.1 (SPROTL7)
C++ の Sun Studio 11 標準ライブラリ (SPROSCL)
C++ の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcpl)
Sun Studio 11 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcm)
Sun Studio 11 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrctv)
Sun Studio 11 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
ソースブラウザの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 ソースブラウザ (SPROsbe)
Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
Sun Studio 11 STLport (SPROSTLPORT)
Misc ファイル (SPROCMISC)

表 A-2 x86 システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 update 1 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun Studio 11 コンパイラ Fortran 95 (SPROCFOR)
Sun Studio 11 コンパイラ FORTRAN 77 ツール (SPROftool)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 Fortran 95 ライブラリ (SPROLIB90)
Sun Studio 11 コンパイラ Fortran 90 (SPROf90)
Sun Studio 11 の共通ツール (SPROOutool)
Sun Studio 11 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrcom)
Sun Studio 11 数学ライブラリのマニュアルページ (SPROmr3m)
Sun Studio 11 テストカバレッジのマニュアルページ (SPROmrtcv)
Sun Studio 11 C9X 数学ライブラリ (SPROM9XS)
Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
ソースブラウザの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrsbe)
Sun Studio 11 ソースブラウザ (SPROsbe)
Fortran 95 の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrftn)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ (SPROCLGC)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ (SPROLGC)
Sun Studio 11 ガベージコレクタ 64 ビットライブラリ (SPROLGCX)
Sun Studio 11 DBX デバッグツール (SPROCDXB)
Sun Studio 11 デバッグツール (SPROdbx)
Sun Studio 11 デバッグツール 64 ビット (SPROdbxx)
Sun Studio 11 デバッグツール (SPROjdbx)
Sun Studio 11 デバッグツール 64 ビット (SPROjdbxx)
dbx の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrdbx)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 デモ (SPROCDемо)
Sun Studio 11 コンパイラの使用例とプログラム (SPROdemo)
Sun Studio 11 構築ソフトウェア (SPROCBLD)
Sun Studio 11 分散 make (SPROdmake)
Sun Studio 11 dmake のマニュアルページ (SPROmrdmk)
Sun Studio 11 デモ (SPROCDемо)
Sun Studio 11 ツールの使用例とプログラム (SPROtdemo)

表 A-2 x86 システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 update 1 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun Studio 11 IDE (SPROCIDE)
Sun Studio 11 IDE README (SPROmride)
Sun Studio 11 dbx GUI プラグイン (SPROdbxui)
Sun Studio 11 GUI インタフェースサポート (SPROsvc)
Sun Studio 11 X-Designer プラグイン (SPROxdplg)
Sun Studio 11 ブランディングファイル (SPROidext)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツール (SPROjnsnb)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツール実行時 (SPROjnsrt)
Sun Studio 11 ネイティブコネクタツールサポート (SPROjnsup)
Sun Studio 11 Exuberant CTags Binary Distribution (SPROctags)
Sun Studio 11 NetBeans (SUNWnbide)
Sun Studio 11 C、C++ および Fortran サポート (SUNWnbcpp)
Sun Studio 11 External Editor Support (SUNWexted)
Sun Studio 11 登録ツール (SPRONbreg)
Sun Studio 11 X-Designer (SPROCXD)
X-Designer GUI ビルダー (SPROfdxd)
X-Designer のマニュアルページとオンラインヘルプ (SPROmrxd)
Sun フリーウェアエディタ (SPROCED)
Sun Studio 11 VIM 外部エディタ (SPROgvim)
Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 (SPROxmbin)
Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 (SPROxmshr)
Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - Source Distribution (SPROxmsrc)
Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - マニュアル (SPROmrxm)
Sun Studio 11 パフォーマンスツール (SPROCPRFT)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザツール (SPROprfan)
パフォーマンスツールの Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrpan)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64 ビットツール (SPROprfax)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザライブラリ API (SPROprflb)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64 ビットライブラリ API (SPROprflx)
Misc ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary バイナリ (SPROdwrfb)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary のマニュアルページ (SPROmrdwf)
Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ GUI (SPROprfgn)
アナライザ GUI の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (SPROmrpgn)

表 A-2 x86 システム版 Solaris 用の Sun Studio 11 update 1 製品のメタクラスタコンポーネントとパッケージ (続き)

Sun Studio 11 マニュアルセット (metaclust=SPROMDOCS)
Sun Studio 11 マニュアルセット (SPROCDOCS)
Sun Studio 11 著作権と画像 (SPROhtbas)
Sun Studio 11 Tools.h++ 7.1 のマニュアル (SPROhtml7)
Sun Studio 11 標準ライブラリ C++ のマニュアル (SPROhtstd)
Sun Studio 11 XDesigner のマニュアル (SPROhtxd)
Sun Studio 11 Sun Performance Library (metaclust=SPROMPLIB)
Sun Performance Library (SPROCPERF)
Sun Studio 11 コンパイラの共通コンポーネント (SPROLANG)
Sun Studio 11 Fortran 95 ライブラリ (SPROLIB90)
Sun Studio 11 Sunmath ライブラリ (SPROSM)
Sun Studio 11 PerfLib の共通コンポーネント (SPROplg)
Sun Studio 11 PerfLib 32 ビット (アーカイブ) (SPROpl)
Sun Studio 11 PerfLib 64 ビット (アーカイブ) (SPROplx)
Sun Studio 11 PerfLib 32 ビット (共用) (SPROpls)
Sun Studio 11 PerfLib 64 ビット (共用) (SPROplsx)
Sun Performance Library の Sun Studio 11 マニュアルページ (SPROmrpl)
Sun Studio 11 Source Distribution (metaclust=SPROMSRC)
DwarfLibrary Source Distribution (DWSRC)
Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary ソース (SPROdwrfs)
Red-Black ツリーライブラリ Source Distribution (RDBLKSRC)
Sun Studio 11 Red-Black_Tree_Library ソース (SPROdbks)
Sun Studio 11 STLport Source Distribution (STLSRC)
Sun Studio 11 STLPort バージョン 4 ソース (SPROstl4h)
Exuberant CTags Source Distribution (CTGSRC)
Sun Studio 11 Exuberant ctags source (SPROctsrc)

付録 B

パッチの識別番号と説明

Sun Studio 11 ソフトウェアには、オペレーティングシステムと製品のパッチが含まれています。このリリースのコンパイラやツールを正しく動作させるには、これらのパッチが必要です。この付録では、このリリースに含まれている Solaris OS 用のパッチを示します。インストール時に「コンポーネントの選択」ページでデフォルトの選択項目を変更しなければ、これらのパッチが自動的にインストールされます。

表 B-1 に SPARC システム版 Solaris 8 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-2 に SPARC システム版 Solaris 9 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-3 に SPARC システム版 Solaris 10 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-4 に x86 システム版 Solaris 8 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-5 に x86 システム版 Solaris 9 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-6 に x86 システム版 Solaris 10 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-1 SPARC システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
109147-37	リンカーのパッチ
108434-18	C++ 用 32 ビット共用ライブラリのパッチ 109147-07 以降が必須
108435-18	C++ 用 64 ビット共用ライブラリのパッチ 108434-18 が必須
111697-04	/usr/ccs/bin/sccs および /usr/ccs/bin/make のパッチ
114802-02	アセンブラ用のパッチ
117557-03	libmtnsk パッチ
111721-04	数学ライブラリ (libm) パッチ
108652-83	X11 6.4.1: Xsun パッチ

表 B-2 SPARC システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
112963-22	リンカーのパッチ
111711-12	C++ 用 32 ビット共用ライブラリのパッチ
111712-12	C++ 用 64 ビット共用ライブラリのパッチ 111711-11 が必須
111703-03	/usr/ccs/bin/sccs および /usr/ccs/bin/make のパッチ
117560-03	libmtnsk パッチ
111722-04	数学ライブラリ (libm) パッチ
112785-43	X11 6.6.1: Xsun パッチ

表 B-3 SPARC システム版 Solaris 10 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
117461-04	リンカーのパッチ
120753-01	libmtnsk パッチ

表 B-4 x86 システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
109148-37	リンカーのパッチ
108436-16	C++_x86 用共用ライブラリのパッチ 109148-07 以降が必須
111701-04	/usr/ccs/bin/sccs および /usr/ccs/bin/make のパッチ
117558-03	libmtnsk パッチ
112757-01	数学ライブラリ (libm) パッチ
108653-72	X11 6.4.1_x86: Xsun パッチ

表 B-5 x86 システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
113986-18	リンカーのパッチ
111713-09	C++_x86 用共用ライブラリのパッチ
115114-01	アセンブラ用のパッチ

表 B-5 x86 システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ (続き)

パッチ識別番号	パッチの説明
117559-03	libmtnsk パッチ
111728-03	数学ライブラリ (libm) パッチ
112786-32	X11 6.6.1_x86: Xsun パッチ

表 B-6 x86 システム版 Solaris 10 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
118345-03	リンカーのパッチ
119964-04	C++_x86 用共用ライブラリのパッチ
120754-02	libmtnsk パッチ

付録 C

J2SE テクノロジに必要なパッチの 識別番号と説明

Java™ 2 Standard Edition (J2SE) テクノロジに必要なパッチは、Sun Studio 11 ソフトウェアの J2SE インストーラに含まれています。これらのパッチは、Solaris OS で J2SE テクノロジが正しく動作するために必要です。この付録では、このリリースに含まれている Solaris OS 用のパッチを示します。J2SE テクノロジのインストール時に「コンポーネントの選択」ページでデフォルトの選択項目を変更しなければ、これらのパッチが自動的にインストールされます。

表 C-1 に SPARC システム版 Solaris 8 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 C-2 に x86 システム版 Solaris 8 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 C-3 に SPARC システム版 Solaris 9 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 C-4 に x86 システム版 Solaris 9 OS のパッチの識別番号と説明を示します。

表 C-1 J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
108652-90	X11 6.4.1: Xsun
108921-23	CDE 1.4: dtwm
108940-68	Motif 1.2.7 および 2.1.1: 実行時ライブラリ
112003-03	64 ビット Solaris 8 iso-1 または iso-15 にフォントセットを読み込めない
108773-19	IIIM と X 入力/出力手法
111310-01	/usr/lib/libdhcpageant.so.1
112472-01	Lucida Sans Thai Typewriter が選択されると Font2DTest2 が異常終了する
109147-34	リンカー
111308-05	/usr/lib/libbmtmalloc.so.1

表 C-1 J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 8 OS 用のパッチ (続き)

パッチ識別番号	パッチの説明
112438-03	/kernel/drv/random
108434-18	C++ 用 32 ビット共用ライブラリ
108435-18	C++ 用 64 ビット共用ライブラリ 108434-17 が必須
113886-28	OpenGL 1.3: Solaris の OpenGL パッチ (32 ビット)
113887-28	OpenGL 1.3: Solaris の OpenGL パッチ (64 ビット)
111111-04	/usr/bin/nawk
112396-02	/usr/bin/fgrep
110386-03	RBAC 機能
111023-03	/kernel/fs/mntfs および /kernel/fs/sparcv9/mntfs
111317-06	/sbin/init および /usr/sbin/init
113648-03	/usr/sbin/mount
115827-01	/sbin/sulogin および /sbin/netstrategy
116602-01	/sbin/uadmin および /sbin/hostconfig
108987-16	patchadd および patchrm 用のパッチ
108528-29	カーネルアップデートおよび Apache
108989-02	/usr/kernel/sys/acctctl および /usr/kernel/sys/exacctsys
108993-44	LDAP2 クライアント、libc、libthread、および libnsl ライブラリ
109326-16	libresolv.so.2 および in.named
110615-13	sendmail

表 C-2 J2SE テクノロジと共にインストールされる x86 システム版 Solaris 8 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
108653-79	X11 6.4.1_x86: Xsun
108941-68	Motif 1.2.7_x86 および 2.1.1_x86: 実行時ライブラリ
108922-23	CDE 1.4_x86: dtwm
108436-16	C++ 用 32 ビット共用ライブラリ
108774-19	IIIM と X 入力/出力手法

表 C-2 J2SE テクノロジと共にインストールされる x86 システム版 Solaris 8 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
111307-06	boot.bin、bootconf.exe、bootenv.rc、および nbp
111311-01	/usr/lib/libdhcpageant.so.1
112473-01	Lucida Sans Thai Typewriter が選択されると Font2DTest2 が異常終了する
112439-02	kernel/drv/random
109148-34	リンカー
111309-05	/usr/lib/libbmtmalloc.so.1
111313-02	Viper Library パッチ
111112-04	/usr/bin/nawk
112397-02	/usr/bin/fgrep
110400-03	RBAC 機能
111024-03	/kernel/fs/mntfs
111318-06	/sbin/init および /usr/sbin/init
113649-03	/usr/sbin/mount
115828-01	/sbin/sulogin および /sbin/netstrategy
116603-01	/sbin/uadmin および /sbin/hostconfig
108988-16	patchadd および patchrm 用のパッチ
108529-29	カーネルアップデートおよび Apache
108990-02	acctctl および exacctsyes
108994-44	LDAP2 クライアント、libc、libthread、および libnsl ライブラリ

表 C-3 J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
111711-12	C++ 用 32 ビット共用ライブラリ
111712-12	C++ 用 64 ビット共用ライブラリ 111711-12 が必須
113886-28	OpenGL 1.3: Solaris の OpenGL パッチ (32 ビット)
113887-28	OpenGL 1.3: Solaris の OpenGL パッチ (64 ビット)

表 C-3 J2SE テクノロジと共にインストールされる SPARC システム版 Solaris 9 OS 用のパッチ (続き)

パッチ識別番号	パッチの説明
113096-03	X11 6.6.1: OWconfig パッチ
112785-47	X11 6.6.1: Xsun パッチ
112963-19	リンカー

表 C-4 J2SE テクノロジと共にインストールされる x86 システム版 Solaris 9 用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
112786-36	X11 6.6.1_x86: Xsun
111713-09	C++ 用 32 ビット共用ライブラリ
113986-15	リンカー

付録 D

Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

この付録では、Sun Studio 11 ソフトウェアに含まれているコンポーネントのバージョン番号を示します。

表 D-1 に、各コンポーネントのバージョン番号を示します。

表 D-1 Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

コンポーネント	バージョン番号
C	5.8
C++	5.8
Fortran 95	8.2
dbx	7.5
dmake	7.7
Locklint	2.6
パフォーマンスアナライザ	7.5
Tools.h++	7.1.0
標準 C++ ライブラリ	2.1.1
Sun パフォーマンスライブラリ	4.2
STLport	4.5.3
X-Designer	7.8

用語集

Solaris™ JumpStart インストール	Solaris JumpStart™ インストールは、システム版 Solaris OS のバージョン 9、バージョン 10 および x86 システム版 Solaris OS のバージョン 9、バージョン 10 で使用できます。これを使用すると、ソフトウェアのインストールプロセスを自動化して、Product Name ソフトウェアを複数のシステムにインストールすることができます。
インストールディレクトリ	Sun Studio 11 ソフトウェア製品をインストールするディレクトリ。デフォルトのインストールディレクトリは、ソースコンピュータの /opt ディレクトリです。
ソースコンピュータ	インストーラの実行先のマシン。このコンピュータに製品 CD-ROM をセットします (またはダウンロードした製品ソフトウェアを配置します)。
ディスプレイコンピュータ	インストーラウィンドウやコマンド行インストーラの表示先のコンピュータ。ローカル表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは同じコンピュータです。リモート表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは別々のコンピュータです。
バッチインストーラ	バッチインストーラは製品にパッケージ化されているインストーラで、最小限の対話でコマンド行から各製品コンポーネントをインストールできます。
リモート表示	インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストーラのウィンドウまたはコマンド行インストーラとは異なるコンピュータにあります。rlogin コマンドを使用して、製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むソースコンピュータにログインします。インストーラウィンドウの表示先として、DISPLAY 環境変数に、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを設定します。インストーラはソースコンピュータで実行しますが、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラはディスプレイコンピュータに表示します。

ローカル表示 インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストールの実行に使用するものと同じコンピュータにあります。ソースコンピュータでインストーラを実行し、ソースコンピュータに接続されたモニターにインストーラウィンドウを表示します。

索引

I

IDE
起動, 27

J

JumpStart インストール, 20

N

NFS マウントファイルシステム
書き込み権, 44

P

productregistry ファイル、破壊された, 42

S

Solaris Product Registry ツール, 41

T

ToolTalk ソフトウェアセッション、初期化, 45

あ

アンインストーラのファイル名, 34
アンインストール
グラフィカルユーザーインターフェース, 34
コマンド行, 36
失敗、対処, 41

い

インストール
CD-ROM, 9
JumpStart, 20
概要, 2
グラフィカルユーザーインターフェース, 11
コマンド行, 13
失敗、確認と対処, 41
シンボリックリンクによってアクセスされる
ディレクトリ, 39
ディレクトリ, 67
バッチインストーラ, 17
リモート表示, 5

か

環境変数
MANPATH, 23
PATH, 23
変更, 22

し

システム要件, 3
シリアル番号、内容の表示, 43

す

スワップ空間
 チェック, 3
 追加, 4

そ

ソースコンピュータ, 68

て

ディスプレイコンピュータ, 67

と

登録ウィザード
 使用, 28

は

バージョン
 コンポーネントの, 65
パッケージコンポーネント情報, 47
パッチ
 インストール, 17
 コマンドオプション, 18
パッチの識別番号と説明, 57, 61

ひ

表示
 リモート, 5, 67
 ローカル, 5, 67

め

メタクラスタ情報, 47

り

リモート表示, 5, 67

ろ

ローカル表示, 5, 67
ログファイル、参照, 43